

講義名	現代ビジネス			授業形態	
担当教員	岡村 俊一郎	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

現代において、企業経営という「現象」をより深く理解するためには、いわゆる「経営学」や「マーケティング」だけでなく、さまざまな学問領域（例：経済学や心理学）の考え方も駆使することが求められるようになってきている。この科目では、現代の企業経営を読み解くうえで重要な意味を持つ概念やキーワードをさまざまな学問領域から取り上げ、関連する事例を交えながら、それらを概観する。

到達目標

本講義の主題は本学のディプロマポリシーに沿ったものであり、それは、企業経営や組織行動において発生する課題や問題に対し、論理的な思考に基づき、具体的な改善策や解決策の提案ができるようになることである。

- 具体的には、以下の四点である。
- (1) いま注目される現代のビジネスを経営学の観点から理解できるようにする。
 - (2) ビジネス関連の記事に関心をもつようになり、その記事を理解できるようにする。
 - (3) 自ら現代のビジネスに関連する新聞記事などの情報を収集し、分析できるようにする。
 - (4) 現代ビジネスの仕組み、とくにその経営を、理論に基づき、自ら考え、理解することができるようになる。

提出課題

- (1) 授業回ごとに小テストへの回答やコメントペーパーの提出を求める。
- (2) 期末回の授業内容を総括したレポート課題の提出を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- (1) いずれの課題も、実施後の授業にて全体向けにフィードバックする。
- (2) 期末レポート課題については、別途オンラインツールを使って全体向けのフィードバックを行う。

評価の基準

- (1) 「小テスト・コメントペーパー：30% + 中間レポート：30% + 期末レポート：40%」で評価する。
- (2) 期末レポートが未提出の場合は、自動的に「放棄」として扱う。
- (3) 6回以上の講義欠席は、自動的に「放棄」として扱う。ただし、これは「5回までなら欠席して良い」という意味ではない。
- (4) 欠席届の対象となる事由によって欠席した場合は、所定の手続きを行った場合のみ配慮する。

履修にあたっての注意・助言他

- (1) 公共交通機関の遅延以外の理由による15分以上の遅刻は、その日の受講や課題提出を認めるが、欠欠は「欠席」として扱う。ただし、これは「15分以内なら無条件に遅刻しても良い」という意味ではない。
- (2) 他の受講生の迷惑となる行為は厳禁とし、違反者は厳重に対応する。場合によっては退学を命じることもある。

教科書

.使用しない。

参考図書

.ザックリ経営学.	中川功一	クロスメディア・パブリッシング	1958	9784295407454

その他

- (1) 講義資料は、授業回ごとにキャンパスサイトにアップロードするので、自分で確認すること。教室内での印刷物の配布は行わない。スマートフォンでの閲覧は推奨しない。
- (2) 記載以外の参考図書は、各授業回において適宜案内する。

授業計画

01. イントロダクション：「現代ビジネス」では、何をどのように学ぶのか？
02. アテンション・エコノミー：SNSに過激な投稿がふられるのは、なぜか？
03. ゴグジュアリー・ビジネス：好況とは言えないのに高級品が売れるのは、なぜか？
04. 映画・サービスの価格設定：「基本プレイ無料」「送料無料で商品が買えないのは、なぜか？
05. 雇用主ブランディング：B2B企業が若者向けテレビ番組にCMを打つのは、なぜか？
06. ジョブ・クラフティング：「仕事のやる気は自分で創る」とは、どういうことか？
07. 価値観：「人ひとの健康が企業成長の力手」とは、どういうことか？
08. ビジネスと感情：「良い製品・サービス」でも売れるとは限らないのは、なぜか？
09. 社会のなかの企業：企業が社会に対して提供すべき価値とは、何か？
10. ビジネスと人権：生産要素としてのヒトは「道具」なのか？
11. ビジネスとIT：仕事のIT化は、何を生み出すのか？
12. ビジネスとAI：人工知能は、ビジネスや働き方をどう変えるのか？
13. ビジネスと地理：会社や店舗の立地が興りがちなのは、なぜか？
14. ビジネスの思考法：ビジネス・ソリューションは、どのように物事を考えているのか？
15. 全体のまとめ：現代の企業経営をさらに深く学ぶには、どうすれば良いのか？

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

<予習>
講義資料を通読し、その授業回の主なトピック、キーワードを確認しておくこと。30分程度。
<復習>
講義資料には概略のみを記載しているので、参考文献やその他文献を参照しながら詳細を補完すること。
また、各種メディアでの企業経営に関する報道に随時、講義で学んだことが実際の企業経営や自身の職業生活にどのように役立つのかを考えること。合わせて90分程度。
これらのほか、レポート課題に関連する取り組みに合わせて30分程度を要する。
総合すると、授業全体として60時間程度の準備学修を想定している。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目では、現代の企業経営にみられる様々な事象について、経営学とその周辺領域の理論や考え方をを用いて理解できるようになることを目指す。この達成により、企業マネジメントに関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・実践的能力の習得が期待できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・小テスト課題やレポート課題は、オンラインツールを活用して実施する。
- ・授業内での発言（またはオンラインツールへの書き込み）を求める可能性が

実務経験の有無及び活用

備考